

普及現地情報



発信年月日:令和6年(2024年)8月8日
所属名:高島農産普及課
番号:H24009
発信者名:三溝、松尾

高島市オリーブの特産化を目指して、産地戦略の検討が始まる！

7月23日、高島市オリーブの特産化を進めるため、市と当課が中心となり、生産者、JA、商工会、観光協会等と共に産地戦略の検討会議を開催しました。

高島市は、令和2年度から耕作放棄地対策として、オリーブの栽培を推進し、市内では令和5年度末時点で、市内に生産者13名、約5ha、約2,000本のオリーブが植栽され、本年度から一部オリーブの実の収穫が見込まれています。

これまで、当課はオリーブの栽培技術に関する支援を行ってきましたが、オリーブを収穫してからの加工・集荷・販売等に関する体制や特産化に向けて目指す方向性が定まっていないという課題がありました。

そこで、当課は、生産者組織やJAレーク滋賀、高島市商工会、びわ湖高島観光協会などで構成される「高島市オリーブ産地化推進協議会(事務局:高島市)」の事務局に対して、協議会構成員が同じ意識をもって連携して取り組んでいけるよう、産地戦略会議の設置を提案し、このたびの開催が実現しました。

当日は、まず園地でオリーブを実際に見て現状を把握していただくことで、特産化への想像力を高めていただきました。そして、その後高島合同庁舎に移動して、株式会社梅久の梅村様より、「アドベリーの特産化事例」についてご講演いただいてから、オリーブに対する思いや期待など、参加者の意見を引き出しながら、高島市のオリーブの目指す姿を検討しました。

第2回産地戦略検討会議は10月頃に開催予定です。また、会議と並行して、加工方法の検討や、栽培技術を高める講習会および先進地視察研修を計画中です。当課はあらゆる方面から、高島市オリーブの特産化に向けた取組を支援することで人口減少が進む高島地域の活性化につなげていきたいと考えています。



現地での説明



産地戦略検討会議